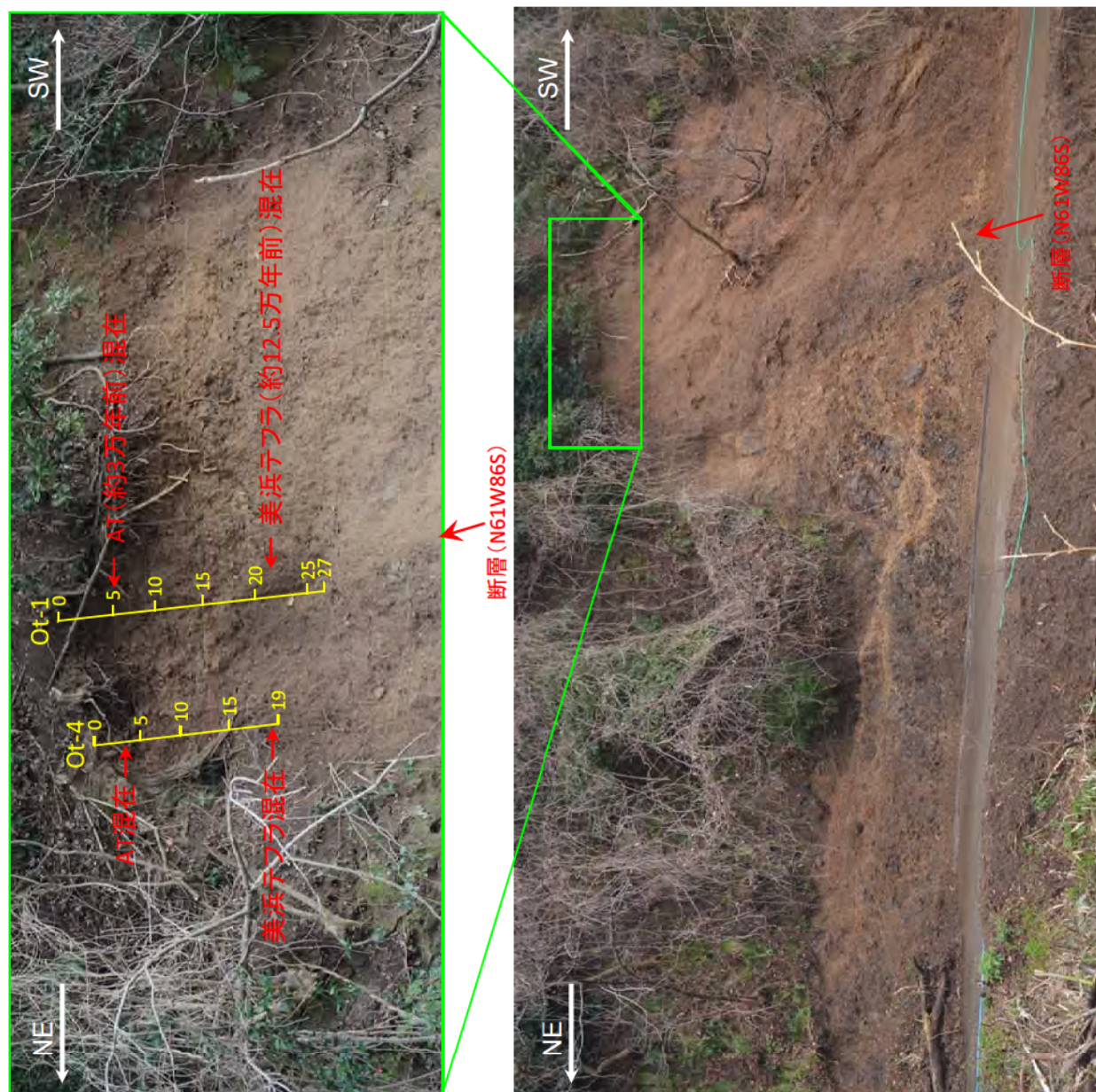
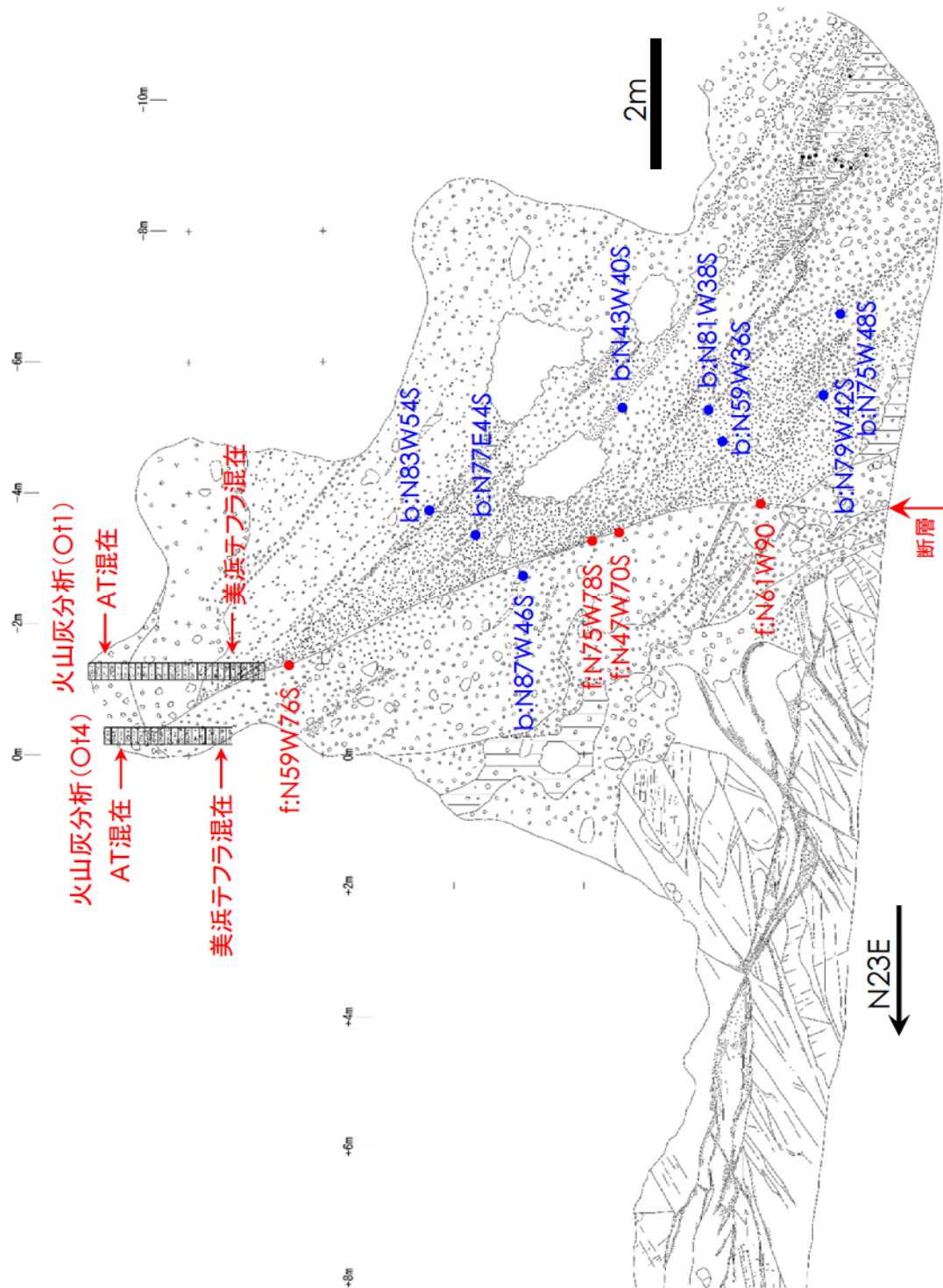


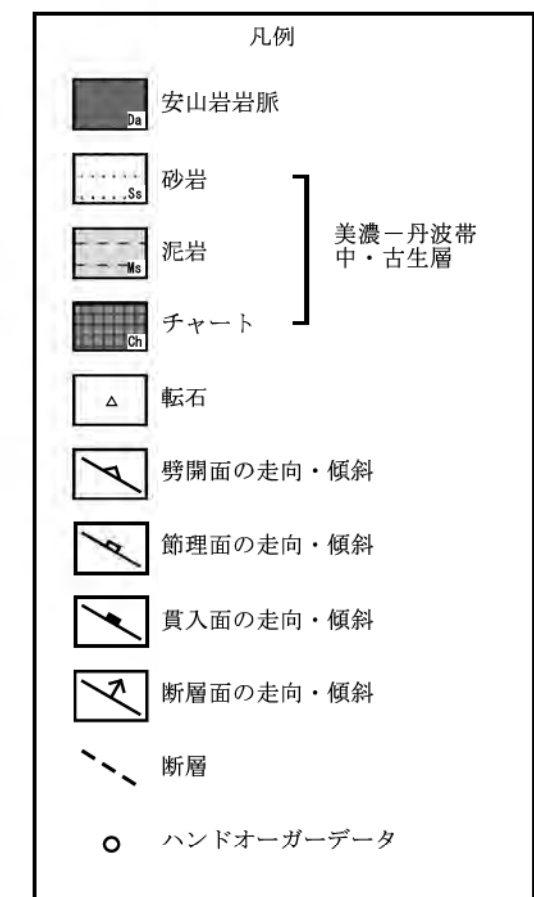
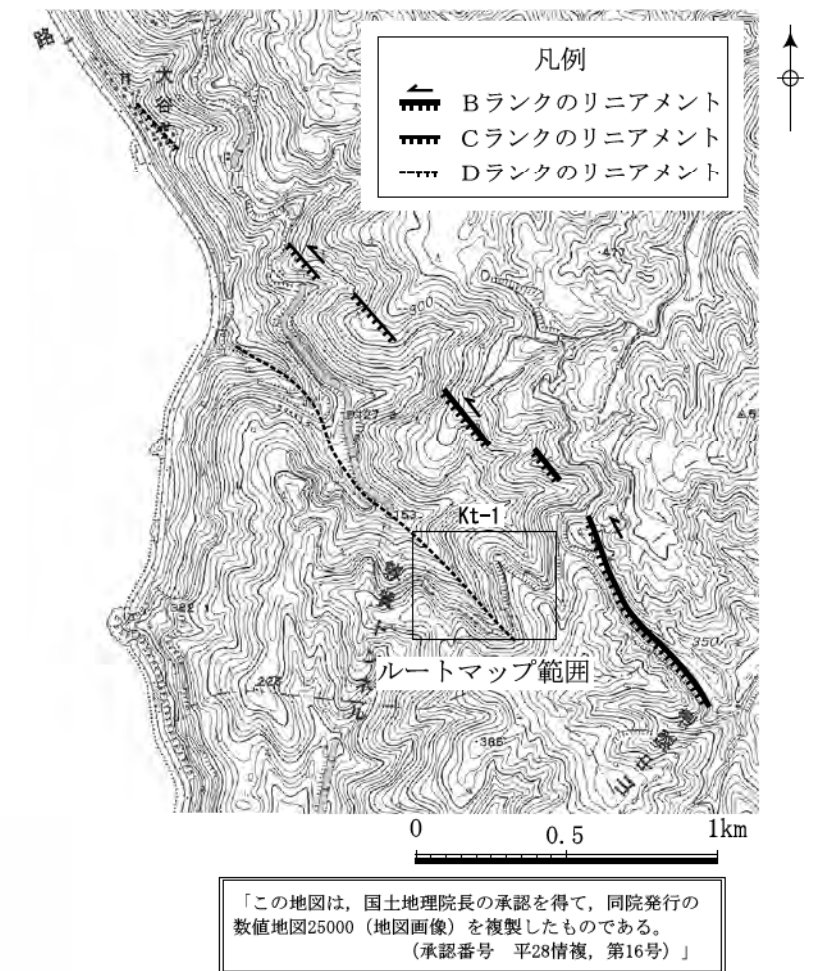
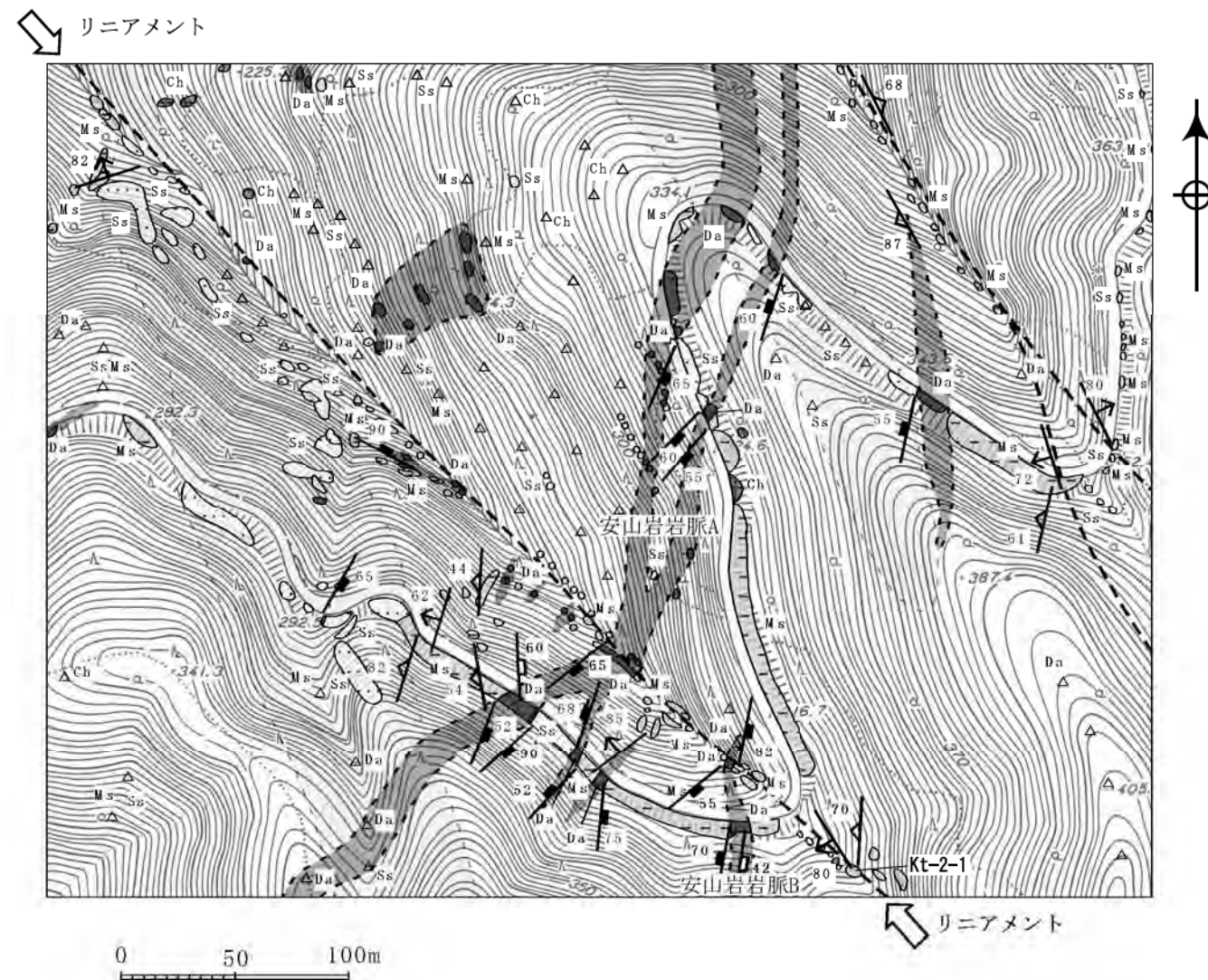


第 1. 3. 22 図 大谷地区の破碎帯の露頭写真

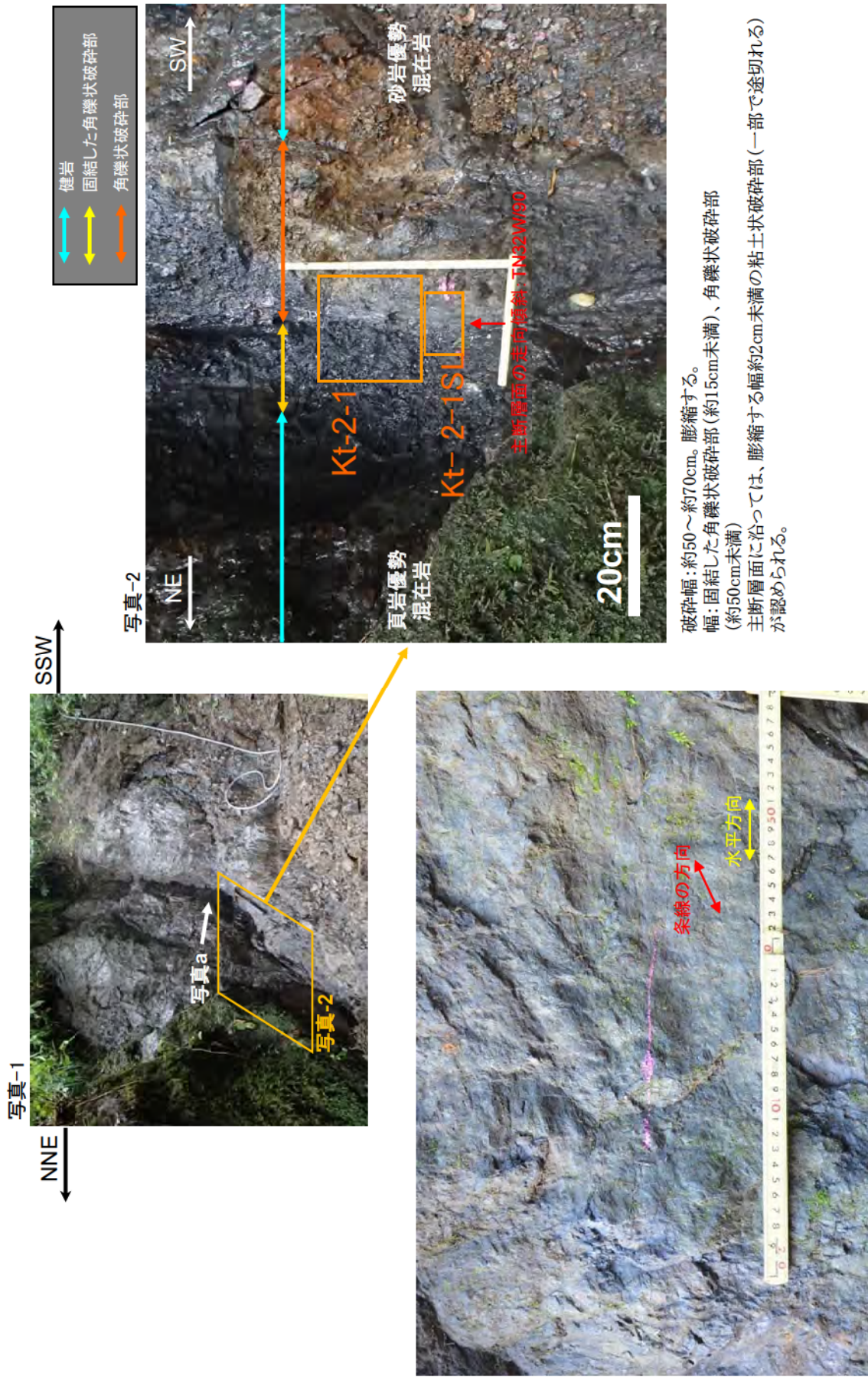


はざ取り調査の結果 NW走向の断層が認められた。断層を挟んで後期更新世以降の地層に上下変位約20cmが認められ、ほぼ終息していることから、断層端部に近いと考えられる。

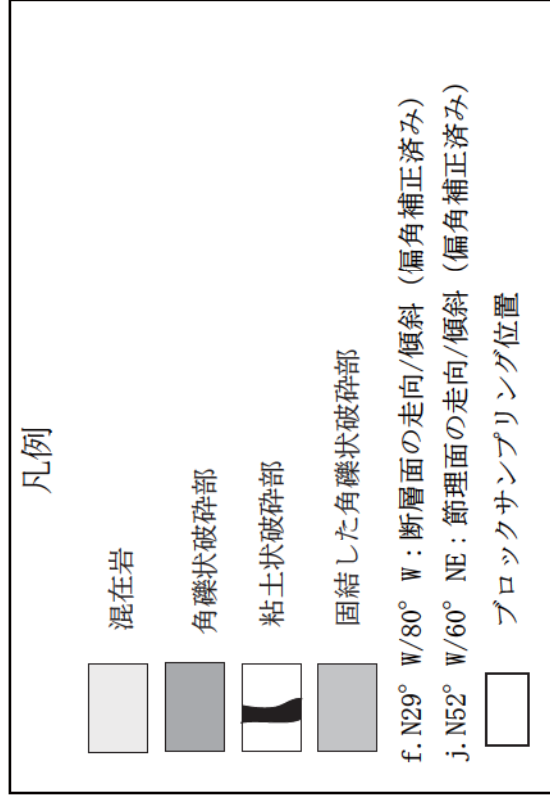
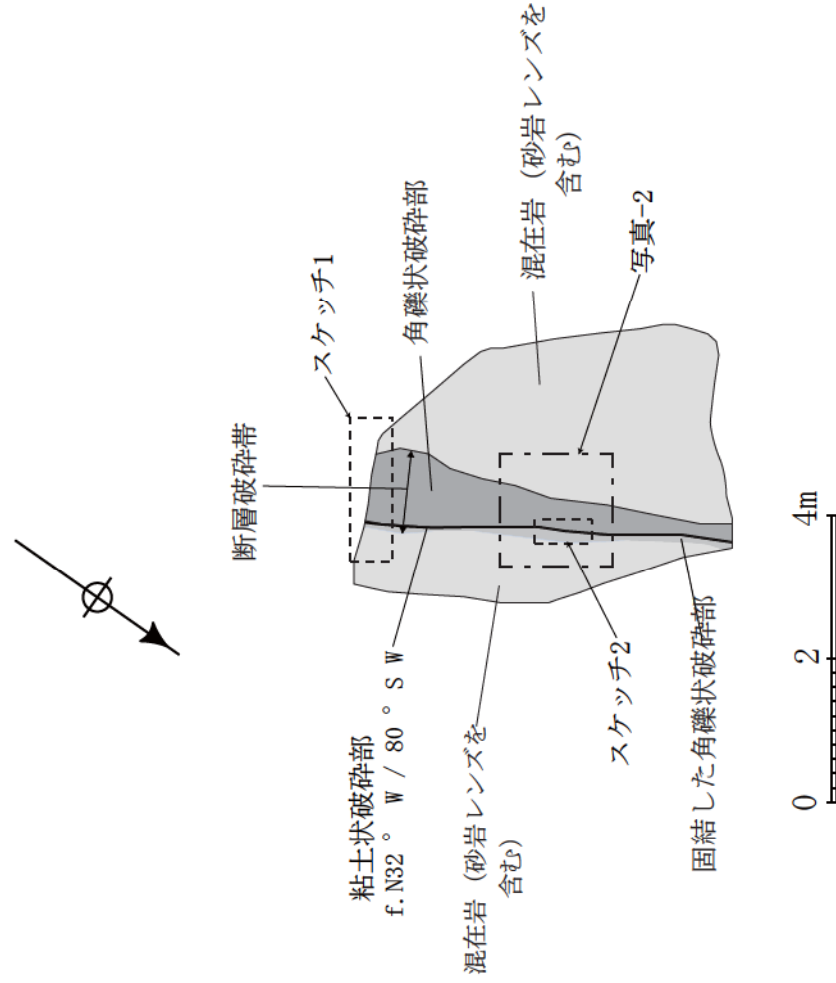
第 1. 3. 23 図 大谷地区の破碎帯の露頭スケッチ



第1.3.24図 甲楽城断層南端付近 山中峠西方のルートマップ (Loc. Kt-1)

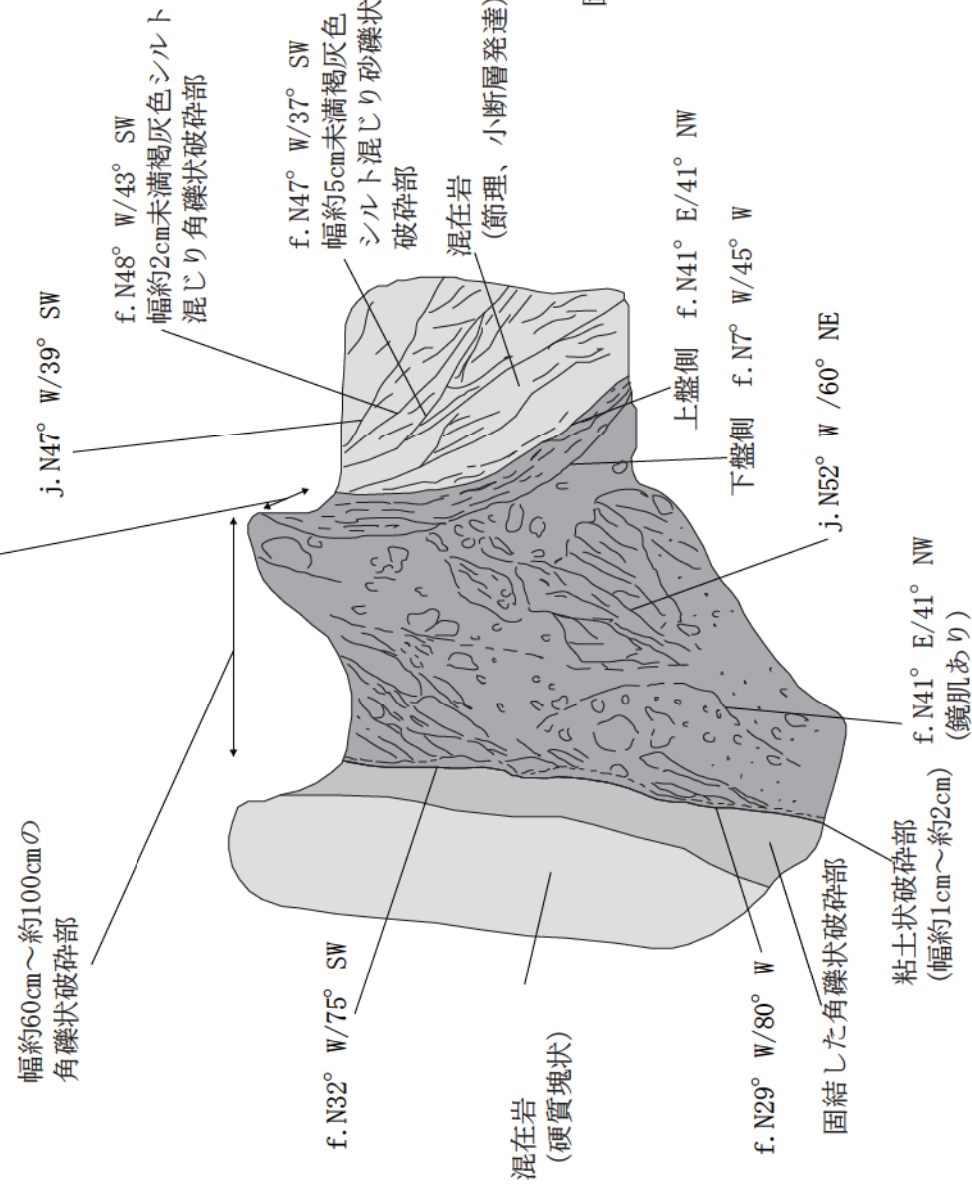


第 1.3.25 図 甲楽城断層南端 山中峠西方の露頭写真 (Loc. Kt-2-1)

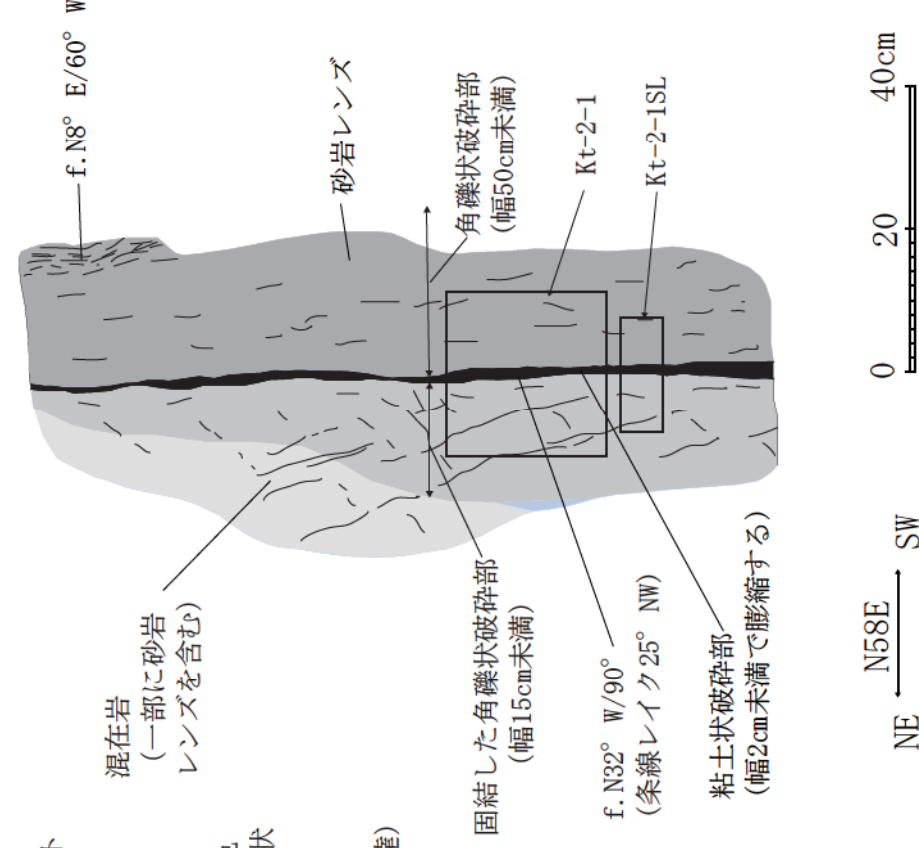


幅約6cm～約20cmシルト混じり破砕部
(上盤側から、幅約3cm暗灰～褐灰色
礫混じり砂質シルト状破砕部、幅約15
cm未満片状破砕部、幅約2cm暗灰色
シルト状部)

幅約60cm～約100cmの
角礫状破砕部



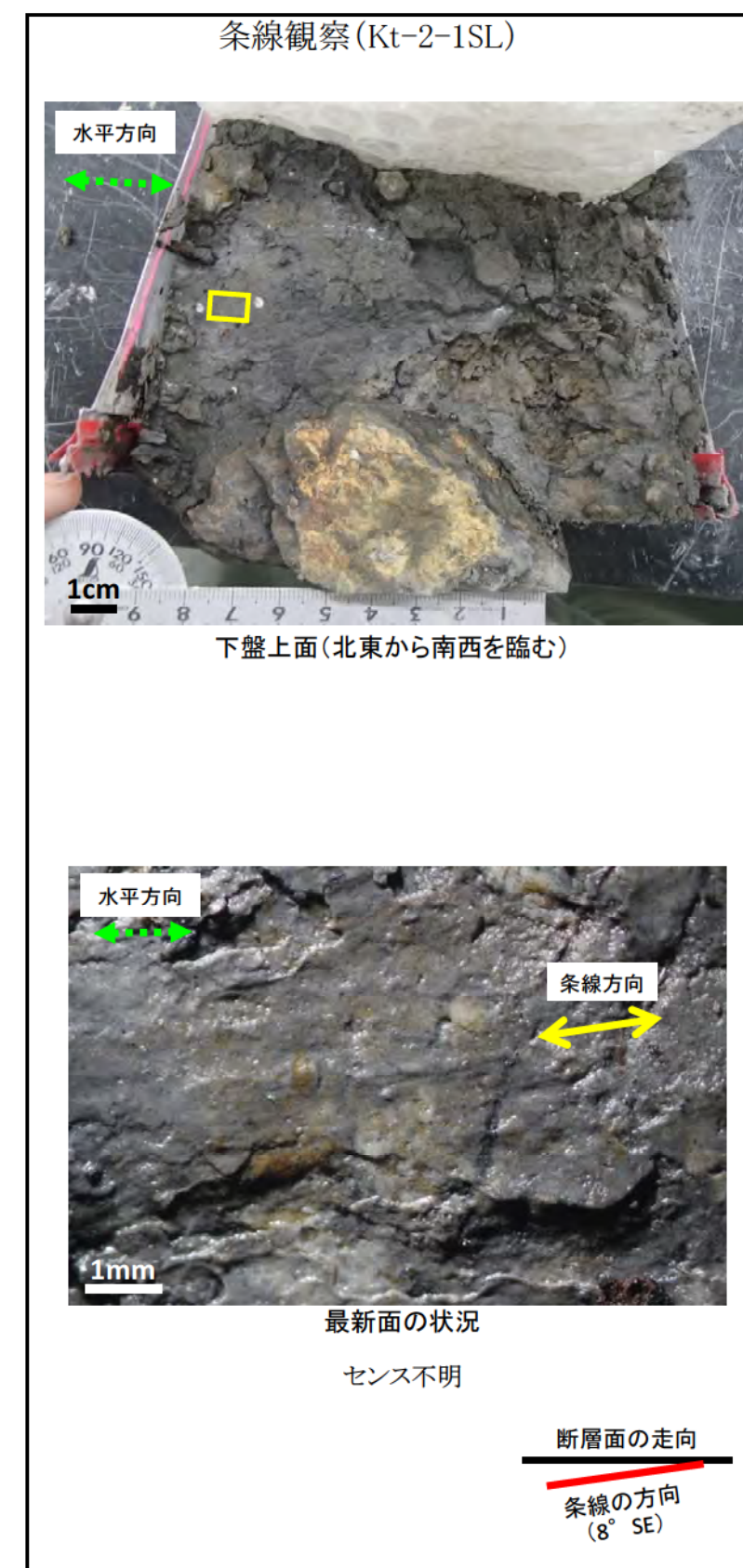
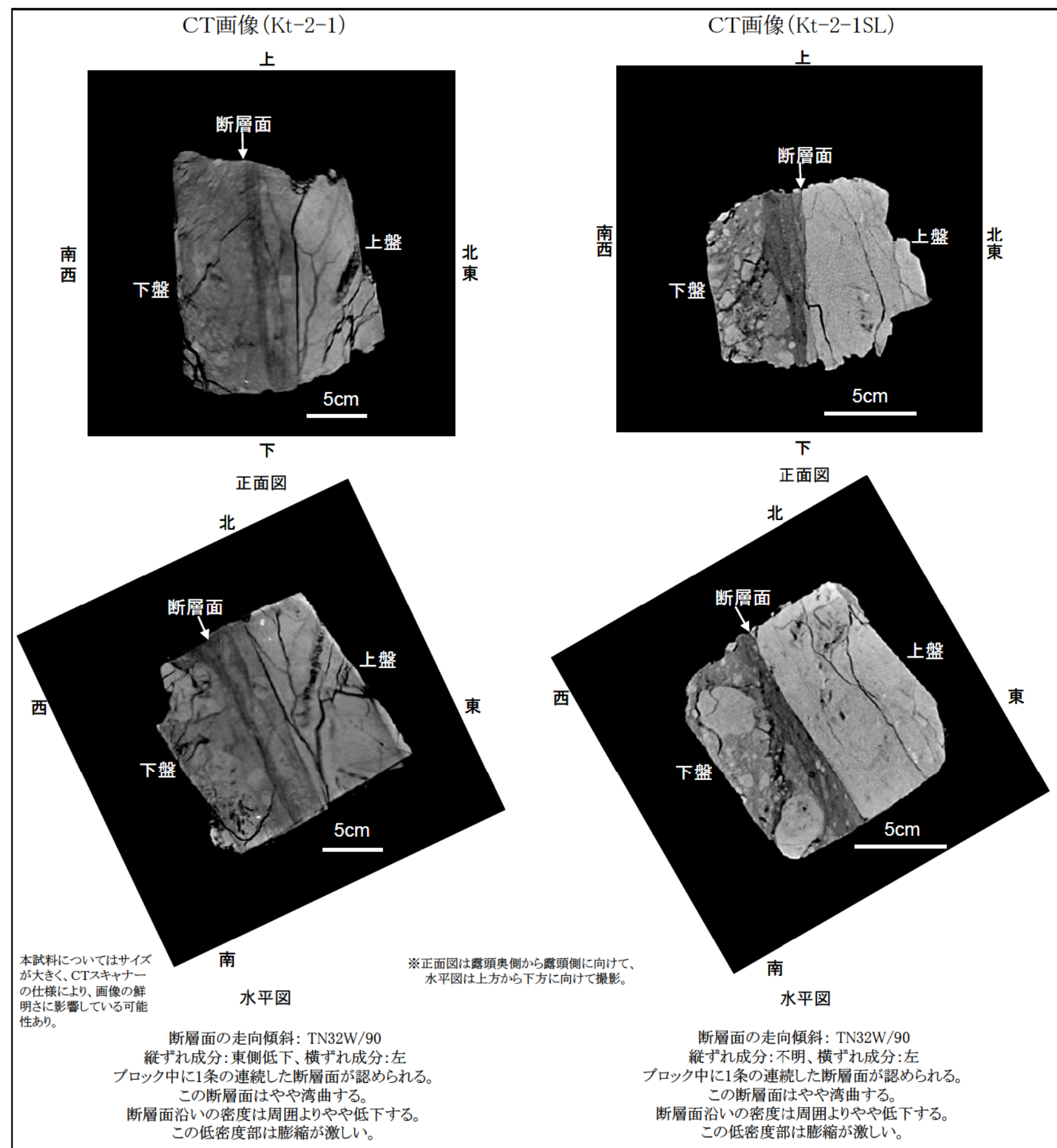
(b) スケッチ1



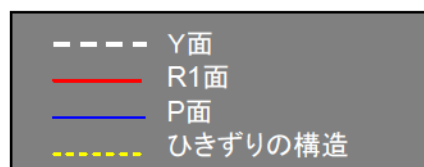
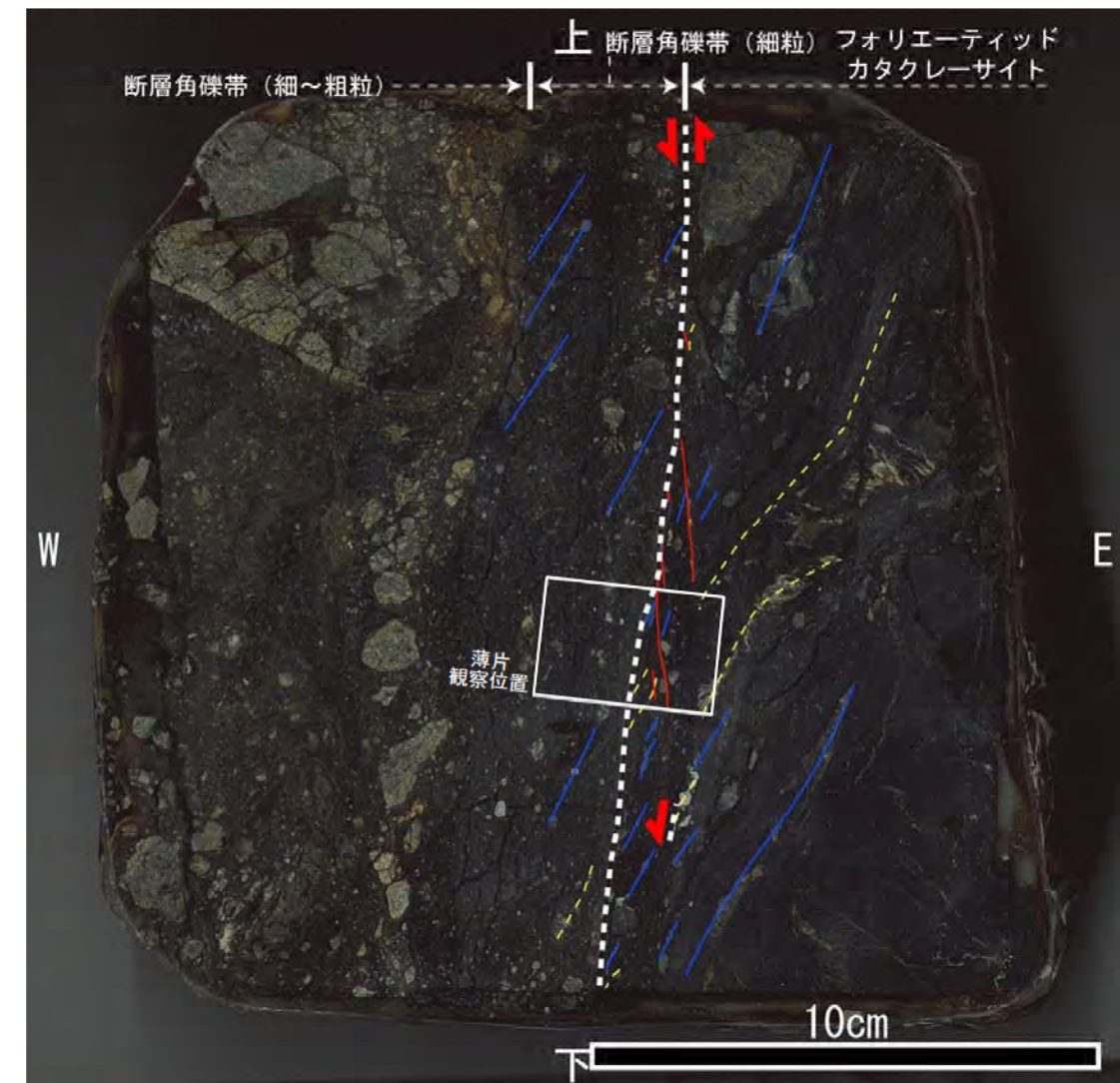
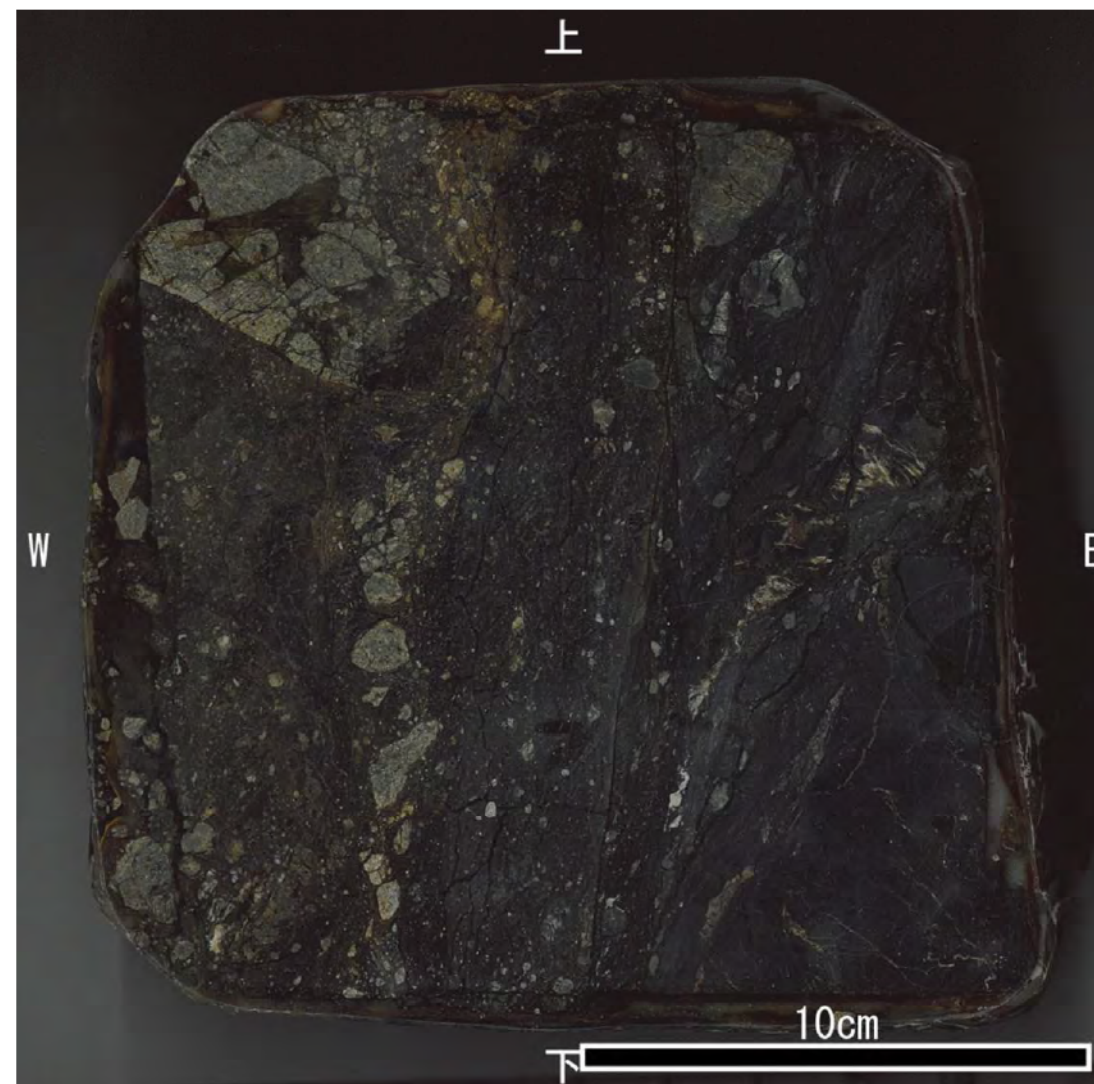
(c) スケッチ2

リニアメント位置の美濃ー丹波帯中・古生層に断層が認められる。断層の走向はリニアメント方向に一致し、甲楽城断層の破砕帯と考えられる。
この露頭では断層面は湾曲し、粘土状破砕部が不連続に挟在する。

第1. 3. 26図 甲楽城断層南端 山中峠西方の露頭スケッチ (Loc.Kt-2-1)

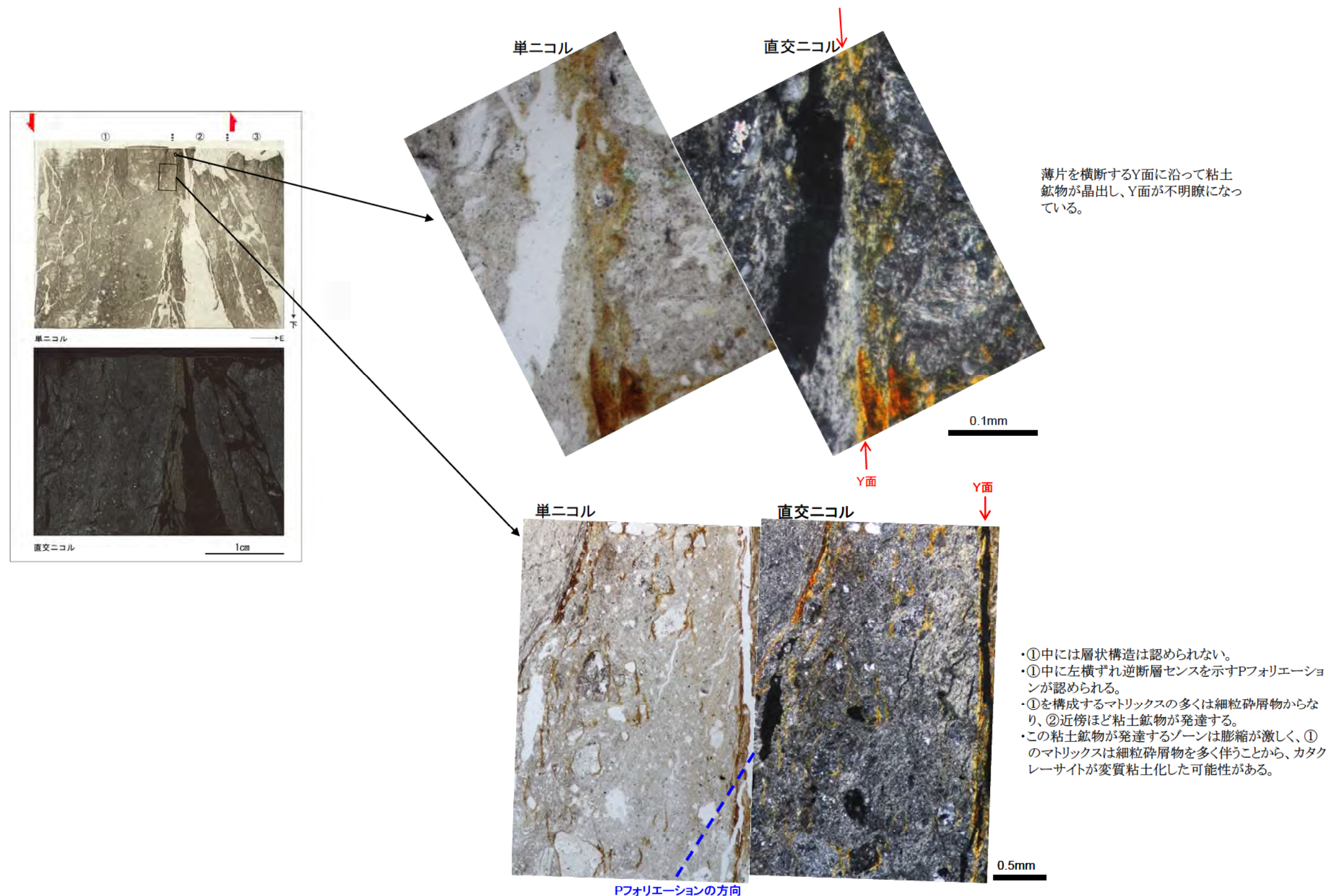


第 1. 3. 27 図 甲楽城断層南端 山中峠北西方の破碎部 ブロック試料の C T 画像観察結果及び条線観察結果 (Loc. Kt-2-1)

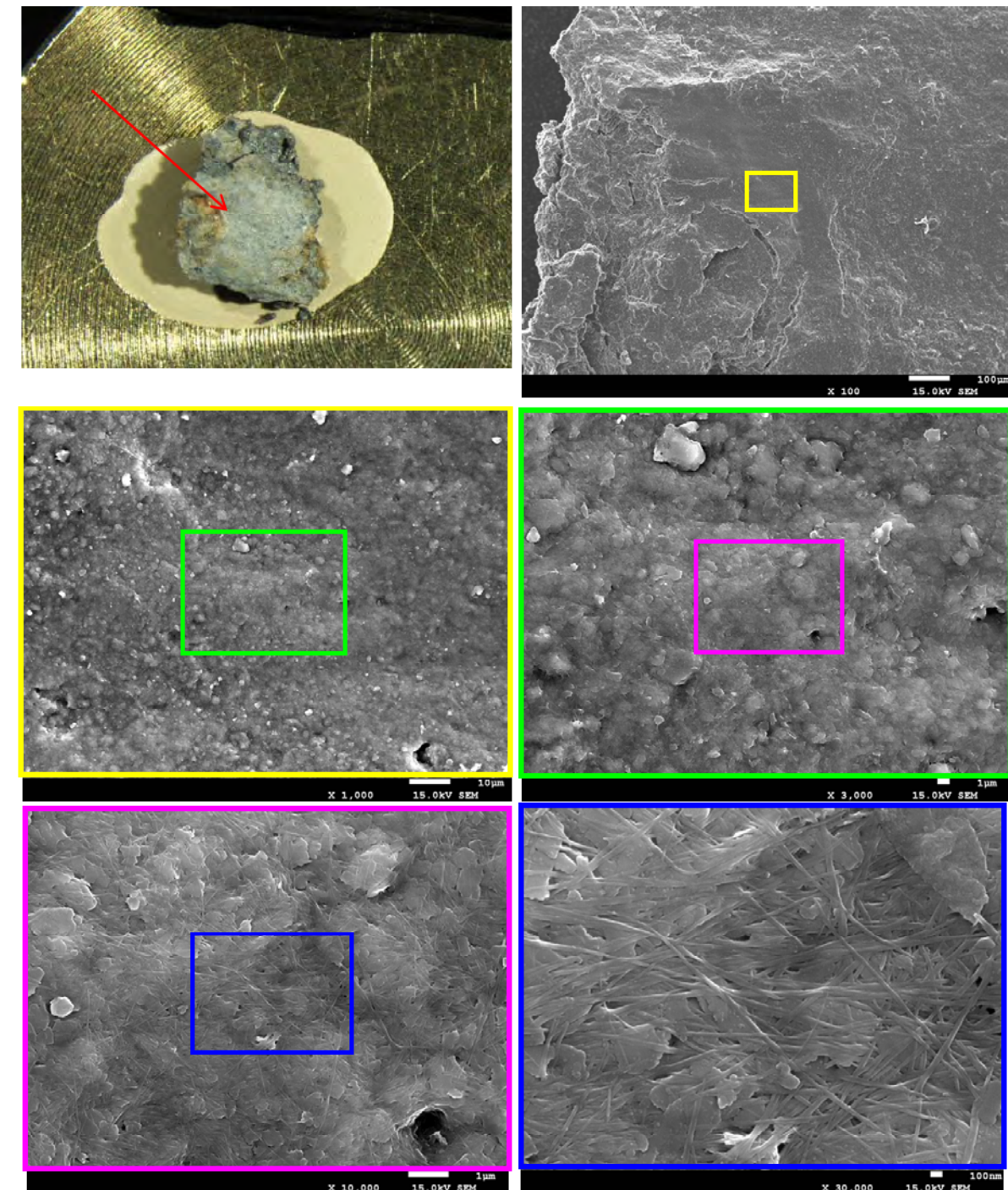
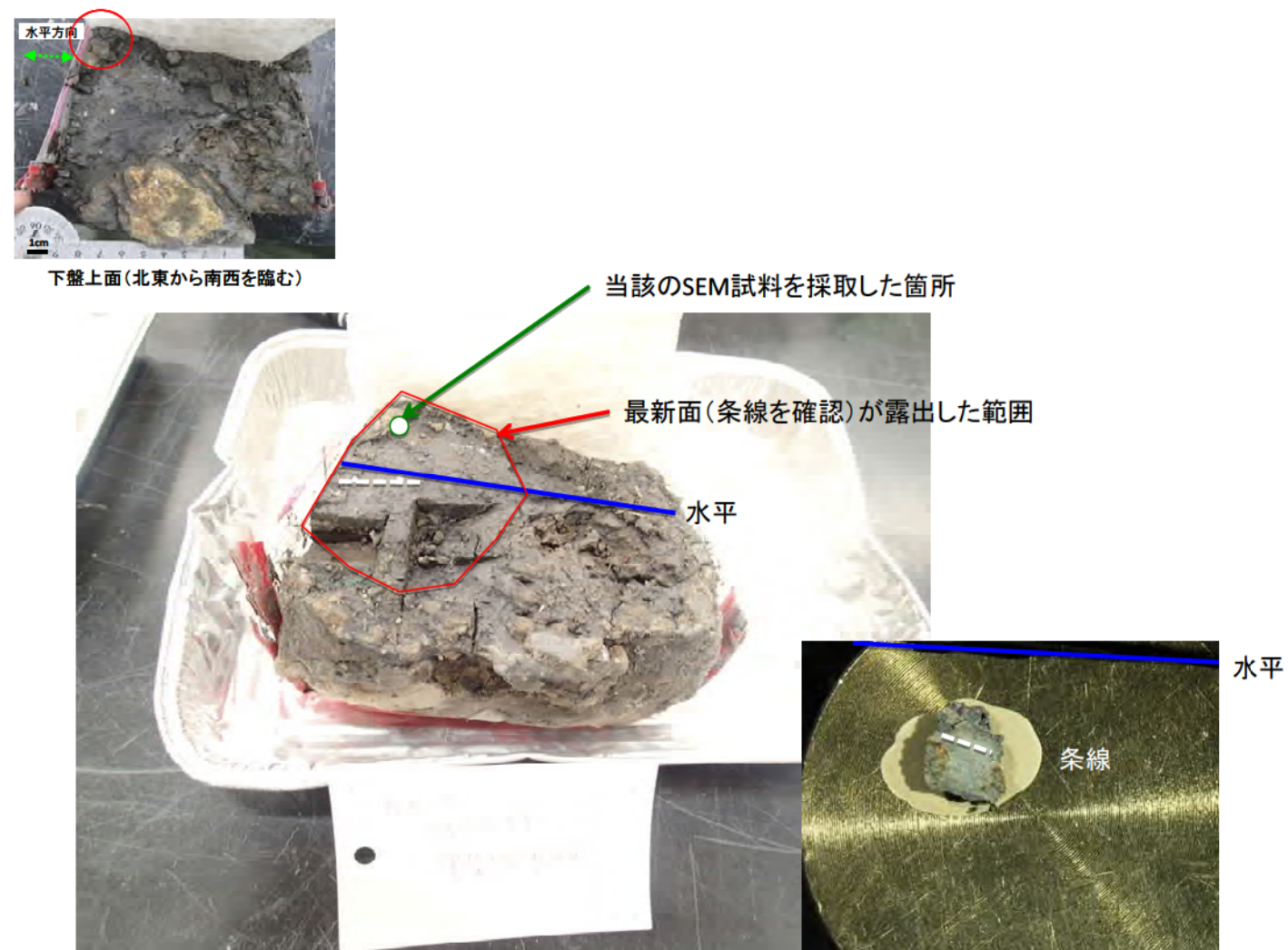


研磨片観察結果

- ・分帯: 研磨片中には主に断層角礫帯とフォリエーティッドカタクレーサイトが認められる。
- ・研磨片を横断するY面(最新面)が断層角礫帯(細粒)とフォリエーティッドカタクレーサイトを境界付ける。このY面以外のY面は連続性に欠ける。最新面に沿って、幅5mm以下の膨縮する粘土状破碎部が認められ、断層角礫帯とは漸移的な関係である。
- ・左横ずれ東側隆起のセンスを示す変形指標が顕著に認められる。

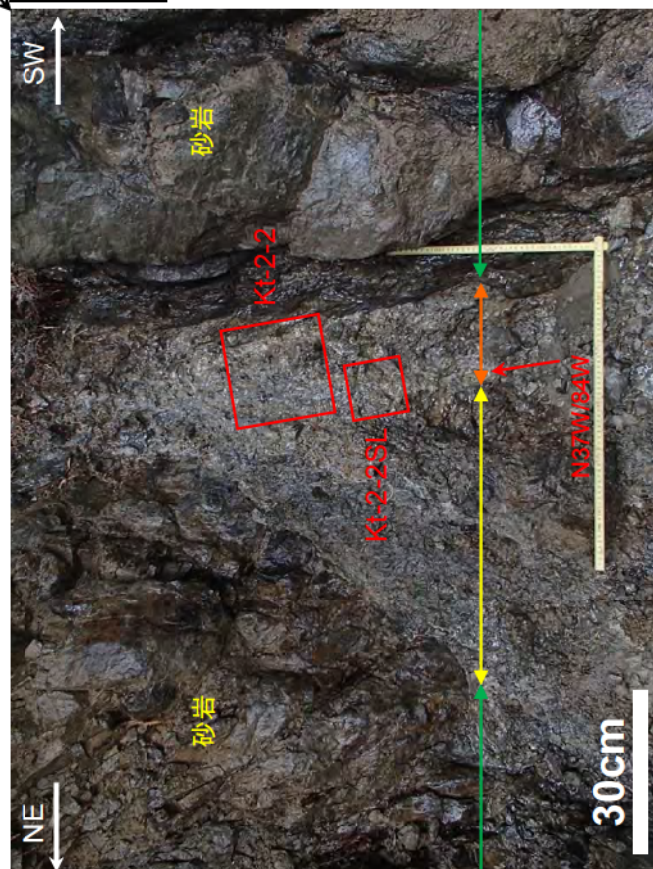
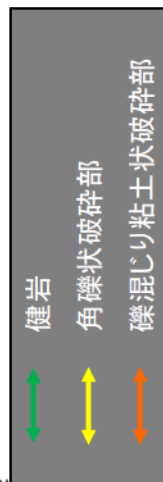
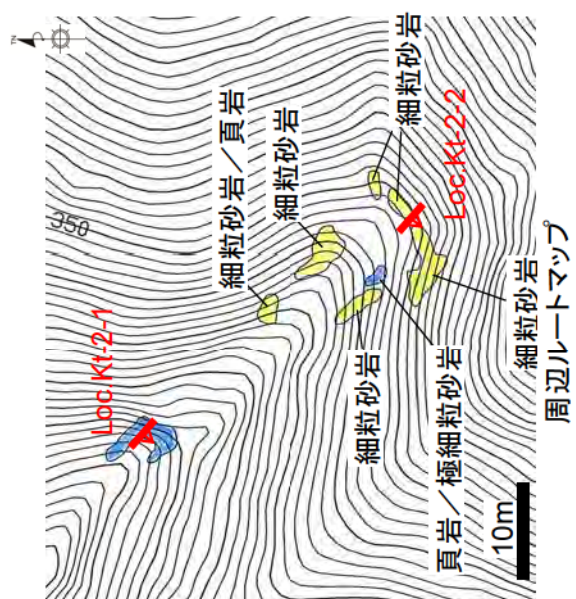


第 1. 3. 29 図 甲楽城断層南端 山中峠北西方の破碎部 ブロック試料の薄片観察結果 (Loc. Kt-2-1)



- ・最新面上に針状の粘土鉱物が認められる。
- ・針状の鉱物は連結しており、結晶成長後に連結を切る断層活動は起こっていない。

第 1. 3. 30 図 甲楽城断層南端 山中峠北西方の破碎部 ブロック試料の電子顕微鏡観察結果 (Loc. Kt-2-1)



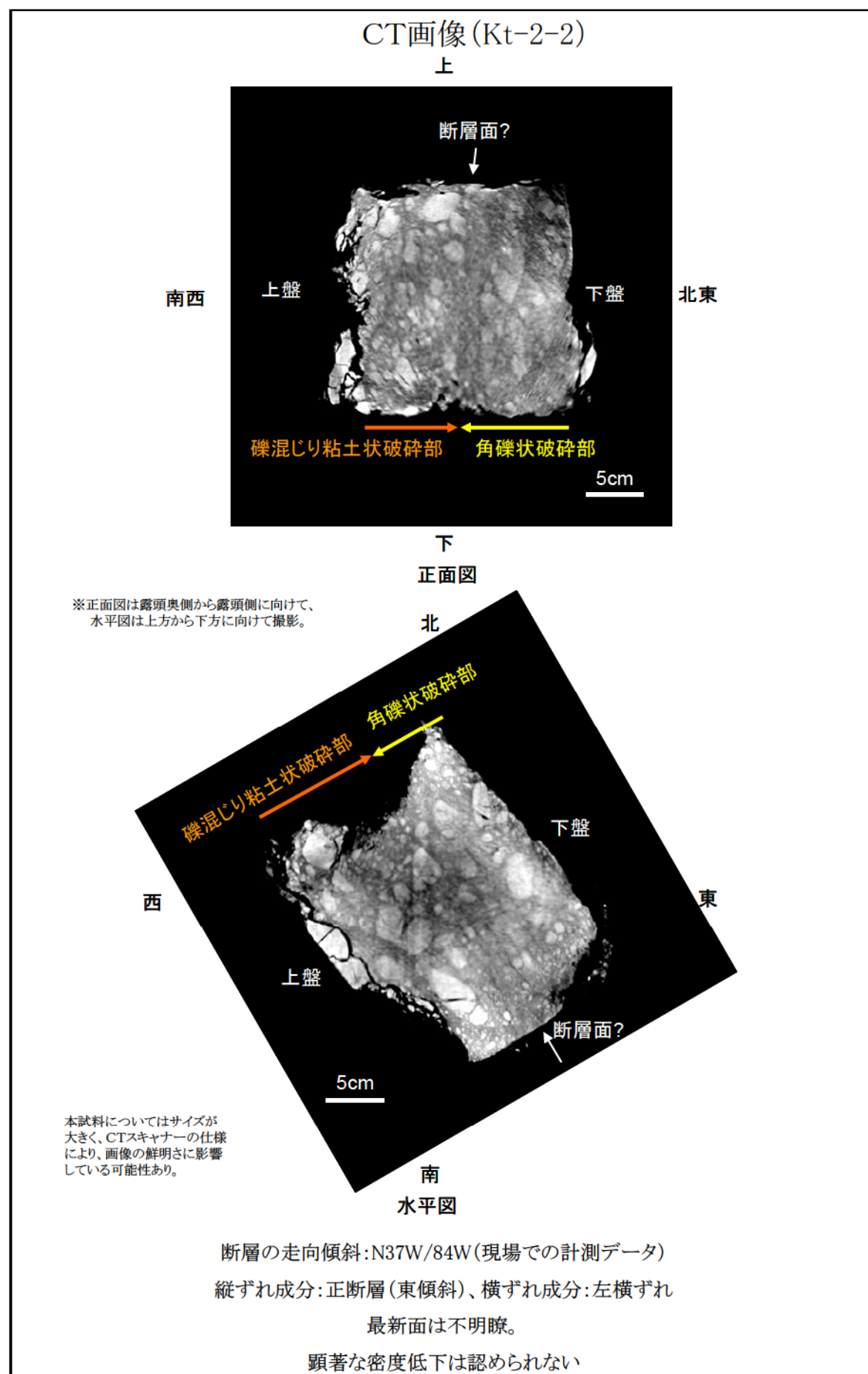
Loc. Kt-2-1より約40m南東側の直線状谷において、砂岩の健岩中に幅数10cmの破碎帯が認められた (Loc. Kt-2-2)。

破碎帯は、角礫状破碎部及び礫混じり粘土状破碎部からなり、直線性が高く、明瞭な断層面は認められない。

条線は不明瞭。

礫混じり粘土状破碎部中に不明瞭な断層面を1条確認しブロックサンプリング、CT・条線観察を実施した。

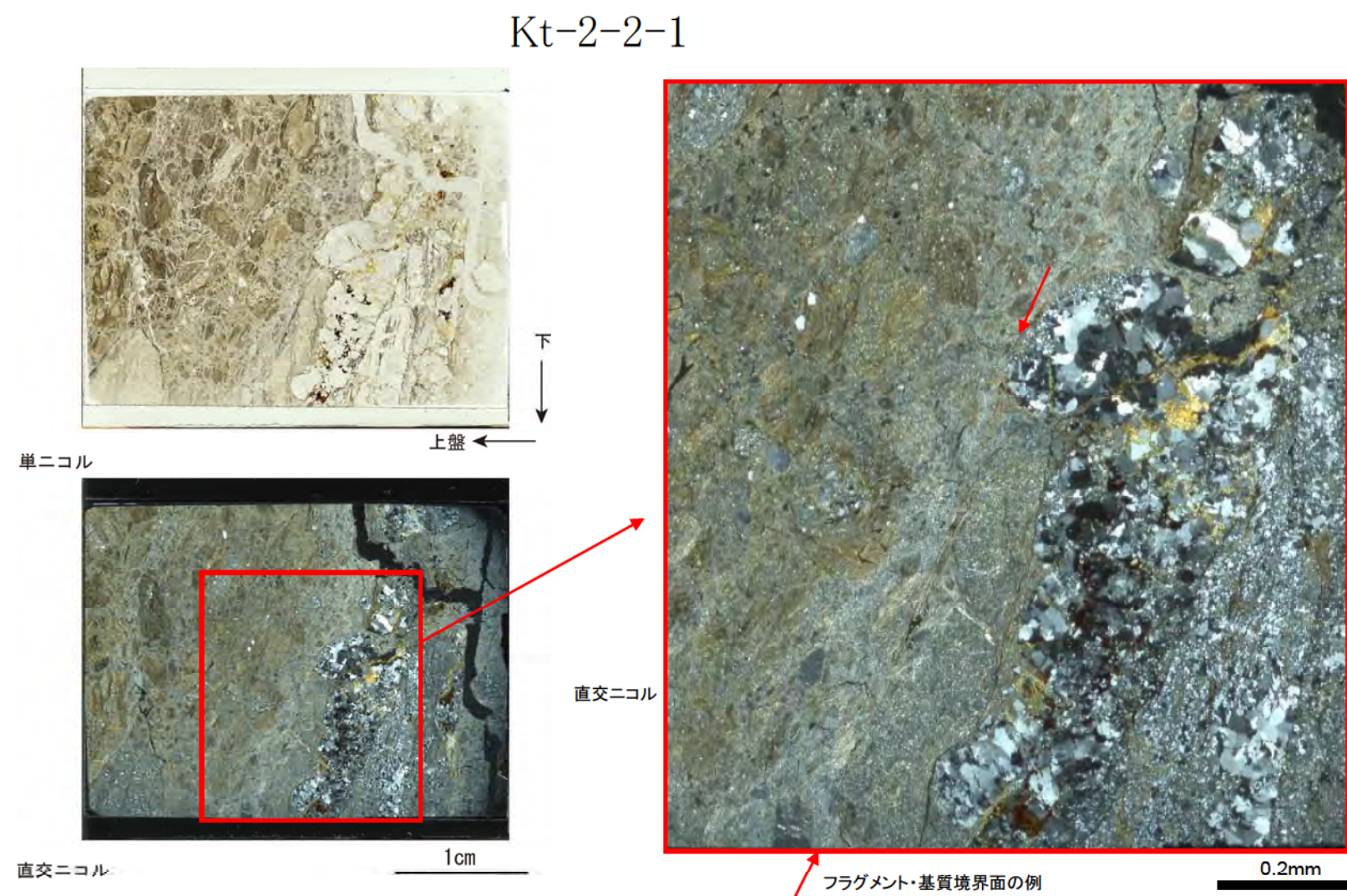
第 1.3.31 図 甲楽城断層南端 山中峠西方の露頭写真 (Loc. Kt-2-2)



第 1. 3. 32 図 甲楽城断層南端 山中峠北西方の破碎部 ブロック試料の C T 画像観察結果及び条線観察結果 (Loc. Kt-2-2)



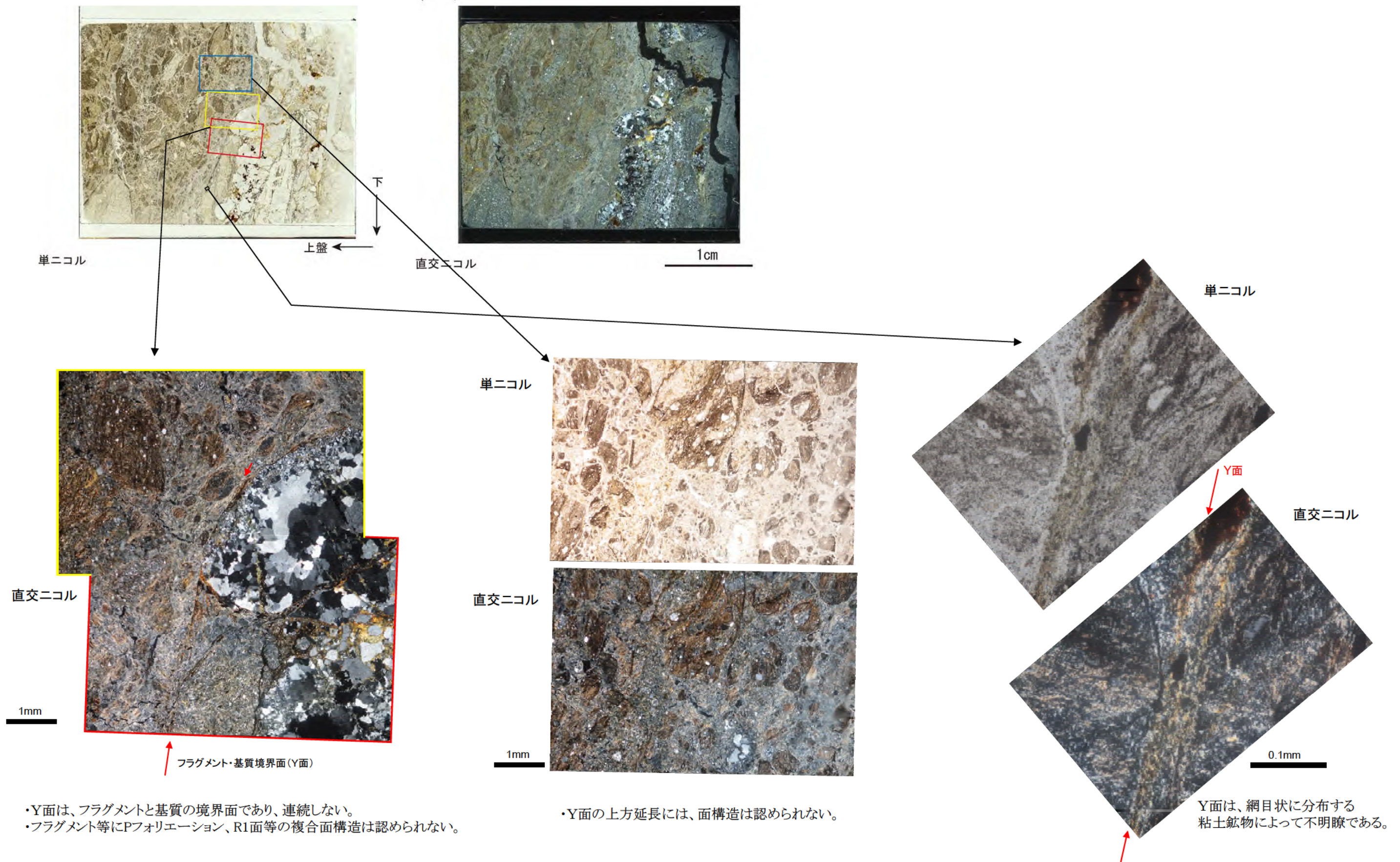
条線に平行方向 (60° S) にブロックを切断し、断層面に直交方向で薄片を3箇所作成。



薄片観察結果

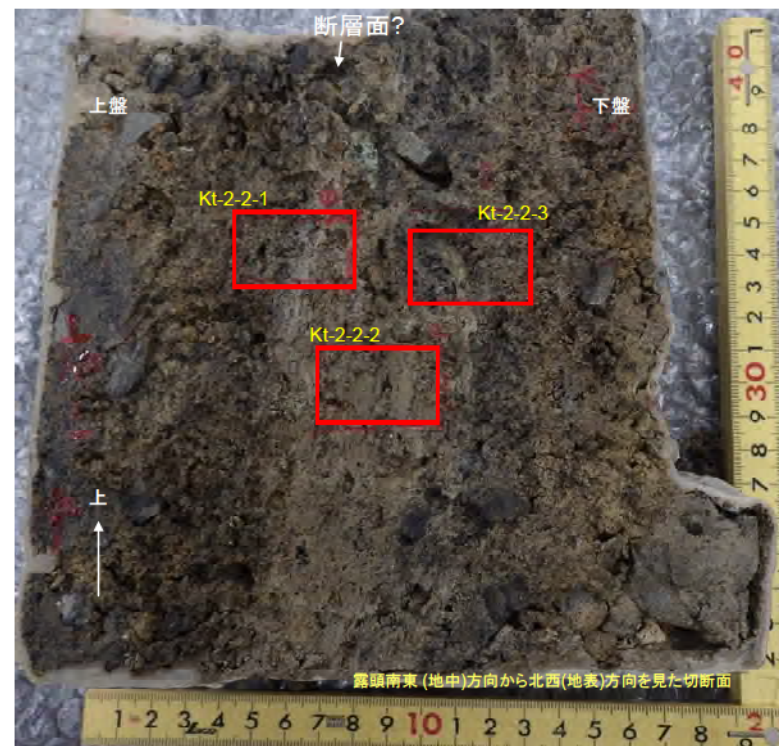
- Y面は、網目状に分布する粘土鉱物によって不明瞭となり、薄片内でせん滅する。
- Y面は、フラグメントと基質の境界面であり、連続しない。
- Pフォリエーション、R1面等の複合面構造は認められない。
- 新第三紀の安山岩の貫入時の熱水変質により、複合面構造が失われている可能性がある。

Kt-2-2-1



第 1. 3. 33 図(2) 甲楽城断層南端 山中峠北西方の破砕部 ブロック試料の薄片観察結果 (Loc. Kt-2-2) (2)

ブロック試料 Loc.Kt-2-2 薄片作成位置



条線に平行方向(60° S)にブロックを切断し、断層面に直交方向で薄片を3箇所作成。

Kt-2-2-2



薄片観察結果
・Y面(せん断面)は認められない。